

教育目標

「自己を見つめ
他を思いやる心」

肥田中だより

令和6年度
1月号



肥田中学校 グラウンドより



校長 鈴木 雄詞

じょ 「恕」

あけましておめでとうございます。2025年が幕を開けました。年の初めにあたり、改めて、本校の教育目標である「自己を見つめ 他を思いやる心」について深く考えたいと思います。私は、『論語』の一節を用いて、「自己を見つめ 他を思いやる」の解釈を次のようにしています。

今からおよそ2500年前、中国、春秋時代のこと。

弟子である子貢が師である孔子に尋ねて言いました。

「孔子先生、ひと言で生涯これを行うべきということはあるでしょうか。」と。

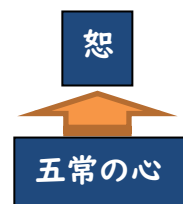
すると孔子先生がおっしゃった。

「それは『恕』であろうか。自分が望まないことを他人に用いないということだ。」

『恕』？ 聞きなれない単語ですね。

『論語』では、以下のような「仁・義・礼・智・信」、いわゆる「五常の心」が説かれています。

- ・自分は、相手の心を察しているか（仁）
- ・自分の考えは、真の正義に則っているか（義）
- ・自分の行動は、社会の秩序を乱さないか（礼）
- ・自分は正しい知識に基づいているか（知）
- ・自分と相手との間には、信頼関係が成り立っているか（信）



孔子の考える『恕』は、これらを自らに問い、その上で成り立つものとされています。つまり、『恕』とは「いつも相手の身になって物事を考えるやさしさと思いやりの心」なのです。人の気持ちがわかるようになると、相手の身になって思い・語り・行動することができるようになるということです。逆に言えば、自分が「善し」としたことでも、相手が望んでいなければしてはいけない、ということになり、本当に相手のことを考えた上での『恕』なのでしょう。

このように考えてみれば、本校教育目標「自己を見つめ 他を思いやる心」とは、まさに『恕』そのものです。これは、2025年の現代においても一番大切にしたい心であり、私たち大人も含めて生涯求め続けるべき心なのでしょうね。

今年も肥田中学校の生徒たちが、自己を見つめ、他を思いやる心を追いつけていけるように、職員一丸となって指導してまいります。

ご家庭、地域の皆様方には、学校の教育活動に対して、増々のご理解・ご協力をお願い申し上げます。